

皮膚科のトリビア

226

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaで
もとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったこと
から「どこにでもある場所」, そこから転じて「瑣末なこと」
となり, 今では雑学的知識, 豆知識, などを意味する言葉
として定着している。

本欄は, 小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ, 連載
しています。ご意見等ございましたら, ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術 大会から

令和4年12月17日

デュピルマブによる多発関節炎

アトピー性皮膚炎に対してデュピルマブを投与
中の5例に四肢の多発関節炎が生じた。男性3例,
女性2例。年齢は50歳代から90歳代と比較的高齢。
デュピルマブ投与後8週から52週後に生じていて
平均22週。3例でCRPの軽度上昇, 2例でMMP-3
の上昇があったが, リウマトイド因子(rheumatoid
factor: RF)は陰性。治療はデュピルマブ中止で2
例が改善。3例は1カ月程度の少量ステロイド内服
を要した。高齢者に使用する際には関節症状の有無
をチェックする必要がある。

一言コメント

「結膜炎が多い, 顔面の病変が残るとは聞いていた
が, 関節痛は知らなかった。当院で使用した症例は
多くないが, これまでのところ経験していない。添
付文書上では頻度は5%未満とのことである。ステ
ロイドが必要だったりMMP-3の上昇を認める例も
あるとは予想外だった。注意しておこう。」

●第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術 大会から

令和4年12月17日

TENにエタネルセプトが有効

高安動脈炎でバファリン配合錠内服中の10歳代
女児。全身に滲出性紅斑, 口唇にびらんが生じた。

ステロイド内服, 血漿交換を行ったが表皮剥離が
進行し50%となり, 中毒性表皮壊死融解症(toxic
epidermal necrolysis: TEN)に移行した。救命の
ためエタネルセプト25 mgを投与, 紅斑は褪色傾向
となり, 3日後, 7日後に計3回投与し, 紅斑の新生
は止まり徐々に上皮化した。ステロイド全身療法で
効果不十分なStevens-Johnson症候群/TENに対
してエタネルセプト療法は有用性が高い。

一言コメント

「TENの皮膚病理はTNFが関与していそうな反応
であるし, 実際血漿交換前の血漿中にはTNF- α
が高いという報告がある。台湾のグループが週2回の
エタネルセプト25 mgの皮下注と, 1~1.5 mg/kg/
日のステロイドとのRCTを報告し, (body surface
area involvement: BSA)10%以上の症例でステロ
イドに比べ完全上皮化までの時間を有意に短縮し,
消化管出血などの副作用が少なかったと報告して
いる。保険適用になるとよい。」

●第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術 大会から

令和4年12月17日

ハーバリウム作製時の皮膚炎

生花店勤務の40歳代女性。ハーバリウムの作製
を行うたびに顔面の腫脹が生じるようになった。
パッチテストでepoxy resinが陽性で, resinによ
るairborne contact dermatitisと診断した。ハー
バリウムとはドライフラワーを用いたインテリア
として人気があり, 流動パラフィンやシリコンオイ

ルに浸すものと、エポキシ系樹脂で固めるものがある。後者の作製の際には注意が必要である。

一言コメント

「ハーバリウムという言葉自体を初めて聞いた。手や顔の湿疹をみたら、ハーバリウムしていない？と聞くことにしよう。」

●第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会から 令和4年12月17日

Bazex症候群もTh2病

結腸癌に伴うBazex症候群。角化を伴う掌蹠の紅斑が結腸癌切除後に消褪した。術前の採血ではTARCとSSCAが高値だったが、術後皮膚症状の改善とともに低下した。SSCAは扁平上皮癌のマーカーだが、アトピー性皮膚炎でも上昇し、IL-4/IL-13によって誘導される。今回の掌蹠の角化性紅斑はSSCAの上昇によって免疫系がTh2にシフトしたことが原因の可能性はある。

一言コメント

「SSCAの上昇自体がアトピー性皮膚炎様の皮膚症状をきたすという報告もあるようだ。SSCAに限らず腫瘍から分泌される各種growth factorが免疫系をTh2にシフトさせるらしい。腫瘍に伴う紅斑症や紅皮症も同じ理由なのかもしれない。」

●第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会から 令和4年12月17日

局所麻酔薬による compartment allergy

60歳代の女性。リドカイン含有局所麻酔テープを貼布後2日目に接触皮膚炎を生じた。製品as isで++、塩酸リドカイン1%で+++。さらに交差反応として、メピバカイン、プリロカインのパッチテストが陽性。皮内テストではリドカイン、メピバカインで遅延型反応陽性。プリロカインでは陰性だった。プリロカインはパッチテスト陽性、浅い皮内～皮下テストで遅延型反応、ただし深い皮下テストでは陰性ということが報告されていて、接触する部位によって反応が異なる、compartment allergyといわれる反応が生じるらしい。

一言コメント

「皮膚の層によって、樹状細胞の密度の違い、あるいはサブセットの違いがあるからだろうとのこと。ちなみにプリロカインはシタネストという製品名で、歯科麻酔でもっとも多く使用される局所麻酔薬である。」

●第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会から 令和4年12月18日

歯科麻酔薬の即時型反応は チャレンジテストが必要

歯科関連局所麻酔薬のアレルギー検査を行った63例の集計。プリックテストは全例陰性、44例に行った皮内テストは4例で陽性(9%)。52例に行ったチャレンジテストは8例で陽性(15%)だったが、そのうち3例はピロ亜硫酸ナトリウムなどの添加物が原因だった。歯科麻酔薬による即時型アレルギー疑い症例の多くは精神的要因、血管迷走神経反射、エピネフリンの薬理作用だが、5～6人に1人は1型アレルギーが関与している可能性がある。

一言コメント

「皮内テストとチャレンジテストの違いがよくわからなかった。陽性率の違いは注射する量に依存するということか。」

●第17回神奈川フットケア研究会から 令和5年2月16日

凍瘡は皮膚表面温度が 20℃以下になると生じる

足の体温をサーモグラフィーで測定した。健康成人女性の平均は、足背で30℃、1趾の背側で22℃。凍瘡の患者の紅斑部は20℃をわずかに下回っていた。20℃以下になると凍瘡が生じやすくなるといえる。サーモグラフィーでなくても非接触型体温計でも評価可能。

一言コメント

「凍瘡は多汗症との関連もあると感じている。雪遊びで濡れた後にも発症しやすい印象。水分があると冷たくなりやすいためか。」